

2025

久野営農経済センターだより



久野営農経済センター肥料農薬販売会

開催場所：久野営農経済センター

開催日時：令和7年7月9日（水） 9:00～13:00 雨天決行

肥料、農薬を特別価格にて販売いたします。皆様のご来店をお待ちしております。

【柑 橘】 *下線部は重要防除のため、必ず防除する。

病害虫防除

6月中～下旬

○黒点病

ジマンダイセン水和剤 600倍 166g/水100ℓ

【温州みかん】収穫30日前 4回 【温州ミカンを除く】収穫90日前 4回

○ミカンハダニ
カイガラムシ類

アタックオイル 又は ハーベストオイル 又は スプレーオイル

150倍 666ml/水100ℓ

○シロハダニ

ハチハチフロアブル（劇） 収穫前日 2回 2,000倍 50ml/水100ℓ 又は

アザミウマ類

コテツフロアブル（劇） 収穫前日 2回 6,000倍 16ml/水100ℓ

（発生園に散布）

※すす病はアブラムシ・コナジラミ・カイガラムシ類の排泄物に繁殖したカビが原因で、害虫防除が重要になる。カイガラムシ類の多発園では下記の通りとする。

【温州みかん】アブロードエースフロアブル 収穫14日前 2回 1,000倍

【温州みかんを除く】アブロードエースフロアブル 収穫45日前 2回 1,000倍

※アブロードエースフロアブルはミカンサビダニにも効果あり。

※ミカンナガタムシ・ゴマダラカミキリ成虫の発生園では、エクシレルSE 5,000倍 前日 3回を散布する。

摘果

大津・青島は大玉果になりやすく、表年の樹はこの時期の摘果を控え、10月下旬からの仕上げ摘果で上を向いた極大果だけを摘果する。裏年の樹は7月中旬に全摘果する。

摘果

不知火・はるみは樹冠上部に着果させると樹勢の低下に繋がるため、生理落果が始まったら樹勢強化の為、樹冠上部1/3～1/4は全摘果する。

【レモン】 *下線部は重要防除のため、必ず防除する。

病害虫防除

6月中旬～下旬

○黒点病

ジマンダイセン水和剤 収穫90日前 4回 600倍 166g/水100ℓ

○ミカンハダニ
カイガラムシ類

アタックオイル 又は ハーベストオイル 又は スプレーオイル

150倍 666ml/水100ℓ

○アザミウマ類

コテツフロアブル（劇） 収穫前日 2回 6,000倍 16ml/水100ℓ

シロハダニ

又はハチハチフロアブル（劇） 収穫前日 2回 2,000倍 50ml/水100ℓ

チャノホコリダニ

※カイガラムシ類が前年多発した園ではアブロードエースフロアブル 収穫45日前 2回 1,000倍 又はスタークル顆粒水溶剤 収穫前日 3回 2,000倍を6月上旬に散布する。アブロードエースフロアブルとスタークル顆粒水溶剤はアブラムシ類、スタークル顆粒水溶剤はミカンハモグリガにも効果がある。

施肥

6月上中旬 夏肥施用 特選みかん配合655 160kg/10a

【う め】 *下線部は重要防除のため、必ず防除する。

病害虫防除

6月上中旬（漬け梅に散布）

○黒星病・すす斑病 インダーフロアブル 5,000倍 収穫前日 2回 20ml/水100ℓ

収 穫

収穫後は丁寧に扱う。当たり傷はその時は目立たずとも後日変色し、クレームの原因となる。

（梅干用） 果実表面の毛じが半分以上脱落し、光沢が出てきた頃。1 樹を期間を空け2回以上にわけて収穫し、未熟果は出荷しない。

【キウイフルーツ】*下線部は重要防除のため、必ず防除する。

病害虫防除 6月～8月 ○カメムシ発生時 スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 収穫前日 3回
50g/水100ℓ

6月中旬 ○果実軟腐病 トップジンM水和剤 1,000倍 収穫前日 5回 100g/水100ℓ
又は フロンサイドSC 2,000倍 収穫30日前 1回 50ml/水100ℓ

○キイロハダカ フェニックスフロアブル 4,000倍 収穫7日前 3回 25ml/水100ℓ

夏肥 6月上旬 キウイ配合 80kg/10a

初期肥大促進のために重要。着果が多くなる場合は、20～40kg増量する。

摘果 2回以上に分けて摘果する。

- ・荒摘果 6月上～中旬：奇形・扁平・傷・病害・小玉果を除去。早く行くと果実肥大が良くなる。
- ・仕上げ摘果 6月下～7月上旬中旬：奇形・傷・小玉果から摘果。1㎡あたり25着果を目標に行う。

【お茶】*下線部は重要防除のため、必ず防除する。

二番茶の摘採 一番茶摘採から45日後が目安となる。

病害虫防除 ※安全使用日数や周辺の摘採日程に十分留意し防除する。

6月上旬～6月中旬 (二番茶摘採園)

○チャノミドリヒメコバエ

チャノハダカミ

カザリハダカ

チャノコナジラミ

コテツフロアブル(劇) 2,000倍 摘採7日前 2回 50ml/水100ℓ

※チャトグコナジラミを対象とする場合は6月上旬に散布する。

○チャノホソガタ多発時 カスケード乳剤 4,000倍 摘採7日前 2回 25ml/水100ℓ

○もち病・炭疽病 オンリーワンフロアブル 3,000倍 摘採7日前 2回 33ml/水100ℓ

※新梢枯死症対策として使用する場合は2,000倍 50ml 摘採7日前 2回 /水100ℓとする。

6月下旬～7月上旬

○輪斑病・新梢枯死症(輪斑病菌による) カスミンボルドー 1,000倍 摘採14日前 2回
100g/水100ℓ

*剪整枝後、出来るだけ早く(3日以内)散布する。

【水稲】

水管理 田植え後、4～5日は水温を保つため掛け流しせずに深水にする。以降は3～5cm前後の深さを保つ。

雑草防除 主な除草体系(例)

通常	一発処理剤(トップガンR1 [®] 粒剤など)
雑草多発田	一発処理剤+後期剤(クリンチャーバスME液剤 など)
ノビエ多発田	一発処理剤+中・後期剤(ヒエクリーン1 [®] 粒剤、クリンチャーバスME液剤、クリンチャーEW など)
コナギ多発田	一発処理剤+後期剤(バサグラン粒剤 など)
クログワイ多発田	クログワイに効果のある一発処理剤(トップガンR1 [®] 粒剤など)+後期剤(バサグラン粒剤、クリンチャーバスME液剤など)
藻類多発田	一発処理剤+モゲトン粒剤

*水稲の一発処理剤・初期剤は、移植後早期の散布を心がけ、散布後7日間は止め水にし、湛水状態を保つ。

*水稲除草剤の散布時期は薬剤によって異なるので、ラベルをよく確認する。

＜注意＞

「収穫〇日前」：定められた使用時期。記載されている収穫前日数まで散布が可能。(前日は24時間前)

「回数」：農薬成分の総使用回数のこと。栽培期間中、何回散布可能か確認すること。

⚠店舗により農薬の在庫状況が異なるので、事前に在庫確認をすることで円滑な購入が可能⚠

農薬を使用する際は、適用作物・希釈倍数・使用回数・使用方法等の使用基準を遵守するとともに飛散防止に努め、ラベルをよく確認し、必ずラベルに基づいて使用すること。